

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール								
															プロダクトオーナー			スクラムマスター		開発チーム			
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサーバービスマネージメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサーバービスマネージメント		
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目																
PL02	システム企画立案	PL02.1	システム化構想の立案	PL02.1.1	システム化構想基本方針の	PL02.1.1.1	システム化構想によるビジネス課題解決の達成目標を確認する	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.1.1.2	事業環境、業務環境の情報を収集し、事業課題を分析する																
						PL02.1.1.3	システム化構想の前提となるIT戦略を把握する																
						PL02.1.1.4	事業環境および業務環境の分析結果と情報システム化目標の関係をIT化方針として文書化する																
				PL02.1.2	現行業務、システムの調査	PL02.1.2.1	現行業務を調査し、業務実態を把握する	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.1.2.2	現行システムの状況を調査し、現行システムの稼働状況を把握する																
						PL02.1.2.3	現行の業務やシステムの状況から、開発、改善、改革対象の範囲を把握する																
				PL02.1.3	新業務の全体像把握と評価指標の設定	PL02.1.3.1	システム化で対応する業務機能のあるべき姿を描く	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.1.3.2	あるべき業務機能に求められる主要機能を明らかにする																
						PL02.1.3.3	企画するシステムにおける業務運用の定量的評価指標を設定する																
						PL02.1.3.4	企画するシステムにおける業務運用の定性的評価指標を設定する																
				PL02.1.4	投資規模の策定	PL02.1.4.1	企画するシステムの開発（一次費用）に関する期間、体制、工数、設備費の概算を見積もる	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.1.4.2	企画するシステムの保守運用（継続費用）に関する体制、工数、機器保守費の概算を見積もる																
						PL02.1.4.3	ビジネスモデルとシステムアーキテクチャによる企業目標、経営戦略およびIT戦略の実現性を評価する																
				PL02.1.5	システム化構想の成案化	PL02.1.5.1	システム化構想書の原案を作成する	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.1.5.2	有識者を集め、システム化構想書をレビューし、成案化する																
						PL02.1.5.3	組織体のルールに従ってシステム化構想の承認を得る																
						PL02.1.5.4	システム化計画の推進体制を立案する																
						PL02.1.5.5	推進体制案を関係先と調整し、体制を確立する																
				PL02.1.6	システム化構想の支援	PL02.1.6.1	対象業務のユーザ要件を把握する	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.1.6.2	適用情報技術の調査を通じて、主要機能実現のためのシステム方式を提言する																
						PL02.1.6.3	業界で利用されているアプリケーションの傾向を調査し、適合性について評価、提言する																
		PL02.2	システム化計画の策定	PL02.2.1	システム化計画におけるプロジェクト計画の策定	PL02.2.1.1	システム化計画の策定に必要な環境および工程を洗い出す	◎	◎	○					◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.2.1.2	システム化計画工程のプロジェクト計画書案を作成する																
						PL02.2.1.3	有識者を集め、プロジェクト計画書案をレビューし、成案化する																

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール												
*本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 *各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム									
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング
							PL02.2.1.4	組織体のルールに従って、プロジェクト計画の承認を得る																				
							PL02.2.2	システム計画の基本要件の分析	PL02.2.2.1	システムに求められる基本機能から、システム化の前提条件を整理する																		
									PL02.2.2.2	システムが果たすべき機能、役割、サービスを考慮し、システム化の範囲を図式化する	◎	◎	○					◎	◎	◎	△	△	△	△				
									PL02.2.2.3	システム化範囲の基本要件について、経営層やユーザ部門との合意形成を図る																		
							PL02.2.3	対象業務の課題整理	PL02.2.3.1	システム化におけるユーザの作業分担範囲を決める																		
									PL02.2.3.2	対象業務の流れと情報を整理し、業務上の課題を分析する	◎	◎	○					◎	◎	◎	△	△	△	△				
									PL02.2.3.3	業務上の課題の中からシステム化によって解決すべき課題を抽出し文書化する																		
							PL02.2.4	現状システムの分析と対応方針の策定	PL02.2.4.1	対象となるシステムの現状について、機能、性能の両面を把握する																		
									PL02.2.4.2	システム障害による影響を分析し、障害対策レベルを設定する	◎	◎	○					◎	◎	◎	△	△	△	△				
									PL02.2.4.3	既存システムとの連携（制限事項）を踏まえ、採用する技術の評価、選定を行う																		
							PL02.2.5	業務モデルの作成	PL02.2.5.1	経営戦略を実現し、組織が継続的に発展できるビジネスモデルを作成する																		
									PL02.2.5.2	ビジネスモデルを実現するために、対象業務および関連する全業務を整理し、業務機能の再構成および業務プロセスを企画する																		
									PL02.2.5.3	対象業務と策定した業務プロセスの主要な変更点および業務実施上の具体的課題を整理し、文書化する	◎	◎	○					◎	◎	◎	△	△	△	△				
									PL02.2.5.4	業務処理の正確性、完全性、可監査性を考慮して、認可方法、情報のインテグリティ、アクセスコントロール、バックアップ、および監査証拠の記録についての方針を定める																		
									PL02.2.5.5	ガバナンスの確立のために、プロセスオーナー、システムオーナー、データオーナーを定義する																		
							PL02.2.6	システム化機能の整理とシステム方式の	PL02.2.6.1	主要機能を実現するための情報と処理を定義する																		
									PL02.2.6.2	主要機能を実現するシステムアーキテクチャを定義する	◎	◎	○					◎	◎	◎	○	○	○	△				
									PL02.2.6.3	主要機能が必要とするデータベースとネットワークの一覧および構成を作成する																		
									PL02.2.6.4	パッケージソフト導入や外部資源の活用を検討する																		
							PL02.2.7	付帯機能、付帯設備に対する基本方針の	PL02.2.7.1	システム移行にかかわる方針および基本的要件を定める																		
									PL02.2.7.2	システム移行のための概略の計画を策する																		
PL02.2.7.3	環境整備に要する大枠のシステム使用期間と使用量を見積もる	◎	◎	○							◎	◎	◎	○	○	○	△											
PL02.2.7.4	業務とシステムに関する教育・訓練の目的および対象範囲等を設定する																											

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール									
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター		開発チーム					
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント
						PL02.2.7.5	教育・訓練の教育体制、設備、環境および実施スケジュール等を設定する																		
				PL02.2.8	サービスレベルと品質に対する基本方針の明確化	PL02.2.8.1	業務に求められるサービスレベル、ならびに達成状況を把握するタイミングを定義する	◎	◎	○							◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.2.8.2	システムに求められるサービスレベル、ならびに達成状況を把握するタイミングを定義する																		
						PL02.2.8.3	システムの品質に対する基本的な要件を定める																		
						PL02.2.8.4	システムの品質保証体制に対する基本的な要件を定める																		
				PL02.2.9	プロジェクトの目標設定	PL02.2.9.1	業務の定量的・定性的評価指標を設定する	◎	◎	○							◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.2.9.2	システムの定量的・定性的評価指標を設定する																		
						PL02.2.9.3	業務やシステムの評価指標について、経営層やユーザ部門との合意形成を図る																		
				PL02.2.10	実現可能性の検討	PL02.2.10.1	開発、運用、保守、移行、環境整備および品質に関する基本要件を定める	◎	◎	○							◎	◎	◎	○	○	○	△		
						PL02.2.10.2	過去のシステム運用評価の結果を把握し、システム化計画の運用要件の充足度を確認する																		
						PL02.2.10.3	システム運用時に発生する障害やリスクに対する保守体制および保守内容の基本要件を定める																		
						PL02.2.10.4	開発の期間、コストおよび作業責任分担等の基本方針を定める																		
						PL02.2.10.5	技術的、経済的な実現可能性を検討する																		
				PL02.2.11	主体開発スケジュールの作成	PL02.2.11.1	システム導入計画の基本要件に適合したサブシステムに分割する	◎	◎	○							◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.2.11.2	サブシステムの開発優先順位を決定する																		
						PL02.2.11.3	サブシステムの単位スケジュールを基本方針に沿って決定する																		
				PL02.2.12	システム選定方針の策定	PL02.2.12.1	システムアーキテクチャの基本的な機能と構成要件を設定する	◎	◎	○							◎	◎	◎	○	○	○	△		
						PL02.2.12.2	システム選定の調査範囲を定義する																		
						PL02.2.12.3	システム投資予算枠を決定する																		
				PL02.2.13	費用とシステム投資効果の算出	PL02.2.13.1	企画するシステムの開発（一次費用）に関する期間、体制、工数、設備費を予測する	◎	◎	○							◎	◎	◎	△	△	△	△		
						PL02.2.13.2	企画するシステムの保守運用（継続費用）に関する体制、工数、機器保守費を予測する																		
						PL02.2.13.3	システム化による費用対効果を算出し、評価する																		
						PL02.2.13.4	システム化しなかった場合を考慮して費用対効果を算出し、評価する																		
						PL02.2.13.5	システム化構想の実現により、企業目標、経営戦略、IT戦略が実現できるかを検証する																		
				PL02.2.14	システム化計画の成案化	PL02.2.14.1	システム化計画書の原案を作成する																		

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール							
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）								プロダクトオーナー							スクラムマスター	開発チーム						
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目															
						PL02.2.14.2	有識者を集め、システム化計画書をレビューし、成案化する															
						PL02.2.14.3	組織体のルールに従って、システム化計画の承認を得る	◎	◎	○					◎	◎	◎	△	△	△	△	
						PL02.2.14.4	要員、納期およびコスト等の制約を把握する															
						PL02.2.14.5	開発プロジェクトの構成とその要員数、役割分担を定義する															
		PL02.3	業務・システム要件定義	PL02.3.1	業務要件の定義	PL02.3.1.1	新要件を考慮した業務フローをプロセス単位で作成し、ユーザの具体的要求事項を可視化する															
						PL02.3.1.2	新業務フローに基づき要求事項の評価を行い、対応範囲を明らかにする															
						PL02.3.1.3	新業務フローに基づき対応範囲以外の業務との関連性を取りまとめる	◎	◎	○					◎	◎	◎	○	○	○	△	
						PL02.3.1.4	対応範囲の業務の入力条件、処理条件、出力条件の業務ルールを概要レベルで取りまとめる															
						PL02.3.1.5	対応範囲の業務の例外処理を洗い出し、明らかにする															
				PL02.3.2	システム要件の定義	PL02.3.2.1	システム化の対象となる人の作業およびシステム機能の実現範囲を定義する															
						PL02.3.2.2	ユーザのニーズや要求をもとに情報管理の観点、単位、形式等を分析する															
						PL02.3.2.3	他システムとの情報授受等のインタフェースを定義する	◎	◎	○					◎	◎	◎	○	○	○	△	
						PL02.3.2.4	ユーザがシステムをどのような環境（システム、人の動き）で運用・保守するのかを確認し、運用要件を検討する															
						PL02.3.2.5	ユーザのニーズに適合した性能、可用性、キャパシティ、セキュリティ、ユーザビリティ等に関する要件を検討する															
		PL02.4	ITサービス要件定義	PL02.4.1	ITサービス要件の定義	PL02.4.1.1	顧客が抱えるシステム運用・保守の課題と運用・保守サービスへのニーズを把握し、サービスの要件をまとめる															
						PL02.4.1.2	運用・保守サービス要件を満たすために必要な体制（要員スキル、要員数、勤務パターン）をまとめる	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△	
						PL02.4.1.3	運用・保守サービス要件に応じてサービスメニューを作成し、顧客に提案する															
						PL02.4.1.4	SLAの草案となる運用・保守サービスの内容、提供時間帯、体制、セキュリティ等をまとめる															
		PL02.5	情報セキュリティ要件定義	PL02.5.1	情報セキュリティ要件の定	PL02.5.1.1	セキュリティポリシーやコンプライアンス、情報保証上の必要性を情報セキュリティ要件に反映させる															
						PL02.5.1.2	実装すべき情報セキュリティの要件（障害発生時の復旧時間の許容時間、データ復旧範囲等、障害対応に関する要件を含む）、実施レベル、考慮点等を明らかにする															
						PL02.5.1.3	各々の情報セキュリティ要件に対する実装方式を提示する	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△	
						PL02.5.1.4	情報セキュリティ要件を実現するための費用を算出する															
						PL02.5.1.5	システムに存在する脆弱性について、その対策と緩和のための取り組みの方針を決定する（アプリケーションの可用性維持からパッチを適用しない場合の対策等を含む）															
						PL02.5.1.6	情報セキュリティ要件に関する制約事項を抽出する															
						PL02.5.2	情報セキュリティ規定の作	PL02.5.2.1	セキュリティポリシーに基づき、企業活動のセキュリティ規定を作成する													
				PL02.5.2.2	セキュリティポリシーに基づき、情報システムのセキュリティ規定を作成する			◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△	
				PL02.5.2.3	経営層、情報セキュリティ関係担当役員、企画関係者にセキュリティ規定を説明し、承認を得る																	
				PL02.5.3	情報セキュリティ計画の立	PL02.5.3.1	情報セキュリティをベースにしたセキュリティ計画を策定する															
						PL02.5.3.2	セキュリティ計画の立案、およびセキュリティ計画を実行するにあたって発生する問題のソリューションを提案する	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△	
						PL02.5.3.3	経営層、情報セキュリティ関係担当役員、企画関係者にセキュリティ計画を説明し、承認を得る															

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール						
*本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 *各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）								プロダクトオーナー							スクラムマスター	開発チーム					
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目														
				PL02.5.4	情報セキュリティ基準の策	PL02.5.4.1	事業戦略、事業継続計画に基づき、各物理サイトの物理的保護レベルを定義する	◎	◎						◎	◎	◎	△	△	△	△
					PL02.5.4.2	セキュリティホール情報やセキュリティ勧告およびパッチの最新情報の分析に基づき、パッチ適用基準を策定する															
					PL02.5.4.3	従業員のソーシャルメディア使用に関するルールを策定する															
					PL02.5.4.4	アウトソース先のセキュリティ基準を策定する															
					PL02.5.4.5	電子データの信頼性を確保するために、第三者機関が発行する電子証明書と自組織が発行する電子証明書をそれぞれ利用する手続きを策定する															
					PL02.5.4.6	情報ネットワークのセキュリティ対策のためのガイダンス文書の発行管理を行う															
PL03	UIデザイン	PL03.1	コンセプト設定	PL03.1.1	ニーズ・ウォンツの設定	PL03.1.1.1	ターゲットユーザの行動パターン、購買意欲を意識した調査を実施し、価値観や心理構造を把握する								◎	◎	◎	△	△	△	△
						PL03.1.1.2	顧客、製品の強み、バックボーン、経営資源、市場環境等を分析する														
						PL03.1.1.3	製品の使用やビジネスモデルを通してターゲットユーザが共感を得られるような価値を定義する														
				PL03.1.2	コンセプトの明確化	PL03.1.2.1	制作物の求められる結果について、顧客に対してインタビューを行い、実現方法を策定する								◎	◎	◎	△	△	△	△
						PL03.1.2.2	製品やサービスの特徴を把握し、ポジショニング戦略を立てる														
						PL03.1.2.3	価値基準やモチベーションを明確にしたターゲットユーザを定義する														
						PL03.1.2.4	ターゲットユーザに訴求したいメッセージに適合したトーン&マナー（デザインの属性、キャラクター）を定義する														
						PL03.1.2.5	競合する企業および、製品やサービスと差別化を行うCI（コーポレートアイデンティティ）、VI（ビジュアルアイデンティティ）計画を策定する														
				PL03.1.3	要件定義	PL03.1.3.1	デザインの要件定義（誰に対してどんな製品およびサービスを提供するのかを具体化する）を行う								◎	◎	◎	△	△	△	△
						PL03.1.3.2	製品やサービスを導入する効果（目標）を設定する														
						PL03.1.3.3	取り組む範囲を具体的に項目化し、実現するための実践的な計画を策定する														
						PL03.1.3.4	ターゲットユーザや利用環境を考慮し、利用する技術を選定する														
						PL03.1.3.5	利用する技術におけるリスクや前提条件等を把握し、要件として設定する														
				PL03.1.4	ユーザビリティへの配慮	PL03.1.4.1	ターゲットユーザが機能を理解しやすい設計を行う								△	△	△	◎	◎	◎	△
						PL03.1.4.2	ターゲットユーザのリテラシに合わせた設計を行う														
						PL03.1.4.3	ターゲットユーザの活動の中で利用しやすい設計を行う														
				PL03.1.5	アクセシビリティへの配慮	PL03.1.5.1	高齢者の利用を想定して、色、コントラスト、図や文字の大きさ、音等に配慮した設計を行う								△	△	△	◎	◎	◎	△
						PL03.1.5.2	視覚障害者の利用を想定して、色、コントラスト、文字やコンテンツの大きさ等に配慮した設計を行う														
						PL03.1.5.3	聴覚障害者の利用を想定して、音等に配慮した設計を行う														
						PL03.1.5.4	利用者の目的や利用環境を想定して、閃光等に配慮した設計を行う														
				PL03.1.6	ユニバーサルデザインへの	PL03.1.6.1	使用者を限定せず公平に柔軟に工夫された設計を行う								△	△	△	◎	◎	◎	△
						PL03.1.6.2	可読性、視認性を考慮した書体（種類、大きさ、コントラスト、文字間行間）を選定する														
						PL03.1.6.3	重要なコンテンツの認識、読み進める順番等、視線動線を設計する														
						PL03.1.6.4	色覚特性を考慮し、情報の内容と重要性を伝えることができる配色を行う														
						PL03.1.6.5	ユーザの誤認識や操作ミスを誘発しない設計を行う														
						PL03.1.6.6	年齢、性別、身体状況、国籍、言語などの違いに関係なく利用することを想定した設計を行う														
				PL03.1.7	基本設計	PL03.1.7.1	ターゲットユーザのニーズを定義し、デザイン（構成、コンテンツ、パーツ等）要件、範囲を設定する														

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール										
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）								ビジネスプロデューサー							プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム							
								ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント					
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント				
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント				
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目																		
				PL03.1.8	プレゼンテーション	PL03.1.7.2	現行システムの課題やユーザーのニーズを踏まえてユーザービリティ要件を具体化する								△	△	△	◎	◎	◎	△				
						PL03.1.7.3	ターゲットユーザーに応じたアクセシビリティの適用範囲を設定する																		
						PL03.1.7.4	ターゲットユーザーに応じたユーザービリティ、ユニバーサルデザインの適用範囲を設定する																		
						PL03.1.8.1	コンセプトをまとめ、顧客へプレゼンテーションを実施する																		
						PL03.1.8.2	提案内容への質問に対して、その意図を理解したうえで、根拠を添えて回答する						○			○	○	○	◎	◎	◎	△			
						PL03.1.8.3	プレゼンテーションの結果を振り返り、コンセプトに反映する																		
						PL03.2.1	ガイドラインの策定	PL03.2.1.1	カラープラン（色相、明度、彩度）を決定する																
								PL03.2.1.2	レイアウト（近接、整列、反復、コントラスト）を決定する																
								PL03.2.1.3	書体（種類、大きさ、コントラスト、ジャンプ率、文字間行間）を決定する																
								PL03.2.1.4	シンボルマーク、ロゴタイプの使い方を決定する						○			△	△	△	◎	◎	◎	△	
								PL03.2.1.5	要件定義に基づいたワイヤーフレーム、プロトタイプを作成する																
								PL03.2.1.6	用字用語、文法表現を統一する																
				PL03.2.1.7	ガイドラインおよびデザイン指示書を文書化する																				
				PL03.2.2	コンテンツ配置計画	PL03.2.2.1	構成するコンテンツを洗い出し、コンセプトに沿って優先度を決定する																		
						PL03.2.2.2	コンテンツをグルーピングし、配置計画を決定する						○			△	△	△	◎	◎	◎	△			
						PL03.2.2.3	動線（視線）を考慮したコンテンツ配置を行う																		
				PL03.2.3	チームビルディング	PL03.2.3.1	コンセプト、ガイドラインの要件をチームへ伝え、作業範囲を明確にする																		
						PL03.2.3.2	デザインコンペなどを企画し、コンセプトやブランディングイメージに合ったデザイナーを選定する						○			◎	◎	◎	○	○	○	△			
						PL03.2.3.3	顧客とデザインチームの情報共有方法を定める																		
				PL03.2.4	計画・情報設計レビュー	PL03.2.4.1	ガイドラインおよびデザイン指示書を関係者へ説明し、承認を得る																		
						PL03.2.4.2	ガイドラインおよびデザイン指示書への質問に対して、その意図を理解したうえで、根拠を添えて回答する						○			○	○	○	◎	◎	◎	△			
						PL03.2.4.3	計画・情報設計レビューの結果を振り返り、ガイドライン、コンテンツ配置計画に反映する																		
				PL03.3	デザイン制作	PL03.3.1	ビジュアルデザインの作成	PL03.3.1.1	コンセプトをもとに、イメージをビジュアル（絵コンテ、カンパ、モックアップ）で具体化する																
								PL03.3.1.2	顧客からのフィードバックとブラッシュアップを繰り返し、ビジュアルデザインを確定させる							○			△	△	△	◎	◎	◎	△
								PL03.3.1.3	CI（コーポレートアイデンティティ）、VI（ビジュアルアイデンティティ）を考慮し、クライアントのブランドを具体的に表現するようオリジナルデザインを作成する																
								PL03.3.1.4	制作に利用するソフトウェアのバージョンや保存形式等を決定する																
						PL03.3.2	HTML/CSSコーディング	PL03.3.2.1	コーディングガイドラインを策定し、コーディングルールを設定する																
								PL03.3.2.2	ガイドライン、処理速度や画面構造を理解したうえで、コーディングを行う																
								PL03.3.2.3	要件定義で定められたターゲットユーザーの利用環境を考慮し、テスト計画書を作成する							○			△	△	△	◎	◎	◎	△
								PL03.3.2.4	コーディングガイドライン、テスト計画書に応じたテストを行う																
						PL03.3.3	ガイドラインの徹底	PL03.3.3.1	ガイドラインに沿ったデザイン制作が行われているか、定期的な評価を行う																
								PL03.3.3.2	要件や仕様に変更があった場合、ガイドラインから逸脱しないようチーム全体に説明や指示を行う						○			△	△	△	◎	◎	◎	△	

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール													
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりを実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム										
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント								
							PL03.3.3.3	策定したガイドラインは、関係者に分かりやすく適切に公開する																					
							PL03.3.4	デザイン制作レビュー	PL03.3.4.1	制作したデザインを顧客へ提示し、レビューを行い、承認を得る																			
									PL03.3.4.2	制作したデザインへの質問に対して、その意図を理解したうえで、根拠を添えて回答する					○				○	○	○	◎	◎	◎	△				
									PL03.3.4.3	デザイン制作レビューの結果を振り返り、ビジュアルデザイン、HTML/CSSコーディング、ガイドラインに反映する																			
									PL03.4.1.1	ガイドラインに沿ったデザインとなっているか評価する																			
							PL03.4	成果物評価	PL03.4.1	成果物評価	PL03.4.1.2	コーディングガイドラインに沿って制作されているか評価する																	
											PL03.4.1.3	ガイドラインに沿った用字用語、文法表現となっているか評価する					○				◎	◎	◎	○	○	○	△		
											PL03.4.1.4	要件定義で定められたターゲットユーザの利用環境に応じたテスト内容が実施されているか評価する																	
											PL03.4.1.5	評価項目を確認し、出荷（納品）可能であるか判断する																	
							PL03.5	知的財産の確立	PL03.5.1	知的財産の確立	PL03.5.1.1	知的財産権の侵害を行っていないか判断する																	
											PL03.5.1.2	知的財産権保護の調査、登録申請手続きを行う					○				◎	◎	◎	△	△	△	△		
											PL03.5.1.3	契約時の知的財産権等の所有を決定する																	
											PL03.5.1.4	知的財産を保全するため、取扱規則を定める																	
							PL03.6	リリース後の評価改善	PL03.6.1	改善サイクルの実施	PL03.6.1.1	顧客の意見やターゲットユーザの利用データから成果を評価し、改善を行う																	
											PL03.6.1.2	評価方針（チェック項目、チェックツール、チェックプロセス（いつ、誰が、どのチェックを行うか））を設定する																	
											PL03.6.1.3	改善項目を顧客へ報告し、改善提案を行い、承認を得る					○				○	○	○	◎	◎	◎	△		
											PL03.6.1.4	ターゲットユーザの利用環境の変化をデザインに反映させ、改善を行う																	
							DV01	システム要件定義・方式設計	DV01.1	システム化要件定義	DV01.1.1	システム化の対象と目的の	DV01.1.1.1	ユーザが抱える問題点やニーズをユーザ業務の視点で把握する															
													DV01.1.1.2	ユーザニーズと現行システムとの関連やギャップの仮説を立てる	◎				◎	◎			-	◎	-	◎	◎	◎	◎
													DV01.1.1.3	提示されたシステム化計画からシステム化の対象となる業務とシステムを特定する															
												DV01.1.2	要求事項の調査と分析	DV01.1.2.1	現行システムをシステム利用状況、ユーザビリティ、HW構成、SW構成、データ構成、運用管理等の視点で分析する														
DV01.1.2.2	システム化要件を明らかにするために、対象範囲と連携する他機能・システムの把握すべき項目を設定し調査する	◎				◎								◎			-	○	-	◎	◎	◎	◎						
DV01.1.2.3	システム化要件を明らかにするために、対象範囲の把握すべき項目を設定し調査する																												
DV01.1.2.4	システム化で利用する予定の技術や製品について調査し、機能、制約、リスクを把握する																												
DV01.1.3	機能要件の定義	DV01.1.3.1	機能に関する要求をシステムとして実現するための機能要件として具体化する																										
		DV01.1.3.2	現行システムの課題やユーザニーズを踏まえてユーザビリティ要件を具体化する	◎									◎	◎			-	○	-	◎	◎	◎	◎						
		DV01.1.3.3	機能要件に対する実装方式を提示する																										
		DV01.1.3.4	機能要件を実現するための費用を算出する																										
DV01.1.4	非機能要件の定義	DV01.1.3.5	機能要件に関する制約事項を抽出する																										
		DV01.1.4.1	可用性、性能・拡張性、運用・保守性、移行性、セキュリティ、システム環境・エコロジーに関する要求をシステムとして実現するための非機能要件として具体化する																										
		DV01.1.4.2	非機能要件に対する実装方式を提示する	◎								◎	◎			◎	○	-	◎	◎	◎	◎							
		DV01.1.4.3	非機能要件を実現するための費用を算出する																										
DV01.1.5	システム化要件の文書化と	DV01.1.4.4	非機能要件に関する制約事項を抽出する																										
		DV01.1.5.1	システム化の対象と目的、要件（機能要件、非機能要件）、制約等をシステム化要件定義書にまとめて関係者に説明する																										
		DV01.1.5.2	関係者からのレビュー結果を評価し、システム化要件定義書を改定する	◎								◎	◎			-	○	-	◎	◎	◎	◎							
		DV01.1.5.3	システム化要件定義書がシステム化計画として定めた内容を満たしていることについて関係者の同意を得る																										
DV01.2	システム化要件定義（Webサイ	DV01.2.1	現状把握	DV01.2.1.1	既存のWebサイトの構造、情報総量、動的データの管理方法を分析する																								
				DV01.2.1.2	既存のWebサイトの各ページへのアクセス状況から利用傾向を把握する													-	○	-	◎	◎	◎	◎					

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール										
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム							
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン
						DV01.2.1.3	Webサイトに対する期待成果や目標に基づく要件を、優先順位をつけて整理する																			
						DV01.2.2	対象Webサイトの要件定義	DV01.2.2.1	対象とするWebサイトのビジネスモデルを明らかにする																	
								DV01.2.2.2	対象とするWebサイトのターゲットとなる利用者を、利用目的、利用頻度、利用方法等によって特定する																	
								DV01.2.2.3	ターゲットとなる利用者に求められるユーザビリティを定義する																	
					DV01.2.2.4			対象とするWebサイトに必要なすべてのコンテンツの関連性と必要な更新頻度を定める																		
					DV01.2.3	システム化要件の文書化と	DV01.2.3.1	システム方式およびシステム化要件との対応、インタフェース等をシステム方式設計書にまとめる																		
							DV01.2.3.2	すべての機能要件および非機能要件がいずれかのシステムの構成要素に割り当てられていることを検証する																		
							DV01.2.3.3	システム方式設計におけるシステム化要件の実現可能性を評価する																		
				DV01.2.3.4			システム方式設計における運用および保守の実現可能性を評価する																			
				DV01.3	セキュリティ要件定義	DV01.3.1	現状把握	DV01.3.1.1	組織のセキュリティポリシーを把握し、情報セキュリティに関する組織規程やルール、法令、ガイドラインの内容を確認する																	
								DV01.3.1.2	当該システムの制約、前提条件、特性を明らかにする	◎					◎	◎			-	○	-	◎	◎	◎	◎	
								DV01.3.1.3	セキュリティポリシーやシステムの制約、前提条件、特性に基づき、セキュリティリスク（システムの脆弱性、脅威等）の分析を行う																	
						DV01.3.2	セキュリティ要件の定義	DV01.3.2.1	セキュリティリスクを回避するための認証、利用制限、データの秘匿、不正追跡・監視、ネットワーク対策、マルウェア対策、Web対策等の要件項目を明らかにする																	
								DV01.3.2.2	各セキュリティ要件項目の具体的な要件と達成指標を定義する	◎					◎	◎			-	○	-	◎	◎	◎	◎	
								DV01.3.2.3	決定したセキュリティ要件を実現するセキュリティ対策を定義し、文書化する																	
						DV01.3.3	セキュリティ要件の評価	DV01.3.3.1	セキュリティ要件のセキュリティポリシーへの準拠性を評価する																	
		DV01.3.3.2	当該システムにおける機能要件およびセキュリティ以外の非機能要件との一貫性を評価する					◎					◎	◎			-	○	-	◎	◎	◎	◎			
		DV01.3.3.3	当該システムにおけるセキュリティ要件の実現可能性を評価する																							
		DV01.3.3.4	当該システムにセキュリティ要件を実装した際の運用・保守の実現可能性を評価する																							
		DV01.4	システム方式設計	DV01.4.1	システム方式の設計	DV01.4.1.1	システム化要件を実現する最上位レベルの方式（ハードウェア構成、ネットワーク、ソフトウェア構成、手作業）を設計する																			
						DV01.4.1.2	システムの構成要素単位に機能要件、非機能要件を割り当てる																			
						DV01.4.1.3	外部インタフェースおよびシステムの構成要素間のインタフェースを定義する	◎					◎	◎			-	○	-	◎	○	◎	◎			
						DV01.4.1.4	アプリケーション、システム、ネットワークの実装のためのセキュリティアーキテクチャを設計する																			
				DV01.4.2	適用製品・技術の評価と選	DV01.4.2.1	システム方式設計に準じて、利用候補となる技術、製品の性能や適合性を評価する																			
						DV01.4.2.2	システム方式設計に準じて、利用候補となるパッケージソフトウェアの機能や性能、適合性を評価する	◎					◎	◎			-	○	-	◎	◎	◎	◎			
						DV01.4.2.3	システム方式設計に準じて、利用候補となるPaaS、IaaS等のシステム稼働環境の性能や適合性を評価する																			
						DV01.4.2.4	利用する技術、製品、稼働環境等を選定し、その事由と実装リスク、前提条件を明らかにする																			
				DV01.4.3	システム方式設計の文書化とレビュー	DV01.4.3.1	システム方式およびシステム化要件との対応、インタフェース等をシステム方式設計書にまとめる																			

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール																		
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム															
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント					
						DV01.4.3.2	すべての機能要件および非機能要件がいずれかのシステムの構成要素に割り当てられていることを検証する	◎					◎	◎		-	○	-	◎	○	◎	◎												
						DV01.4.3.3	システム方式設計におけるシステム化要件の実現可能性を評価する																											
						DV01.4.3.4	システム方式設計における運用および保守の実現可能性を評価する																											
						DV01.5	システム方式設計（ソフトウェア製品）									DV01.5.1	システム方式の設計	DV01.5.1.1	システム化要件を実現する最上位レベルの方式（前提とするハードウェア構成、ネットワーク、当該ソフトウェア製品を含むソフトウェア構成、手作業）を設計する									-	○	-	◎	○	◎	◎
																		DV01.5.1.2	システムの構成要素単位に機能要件、非機能要件を割り当てる															
																		DV01.5.1.3	外部インタフェースおよびシステムの構成要素間のインタフェースを定義する															
		DV01.5.2	適用製品・技術の評価と選定	DV01.5.2.1	システム方式設計に準じて、利用候補となる技術、製品の性能や適合性を評価する												-	○	-	◎	○	◎	◎											
				DV01.5.2.2	システム方式設計に準じて、利用候補となるPaaS、IaaS等のシステム稼働環境の性能や適合性を評価する																													
				DV01.5.2.3	利用する技術、製品、稼働環境等を選定し、その事由と実装リスク、前提条件を明らかにする																													
		DV01.5.3	システム方式設計の文書化とレビュー	DV01.5.3.1	システム方式およびシステム化要件との対応、インタフェース等をシステム方式設計書にまとめる													-	○	-	◎	○	◎	◎										
				DV01.5.3.2	すべての機能要件および非機能要件がいずれかのシステムの構成要素に割り当てられていることを検証する																													
				DV01.5.3.3	システム方式設計におけるシステム化要件の実現可能性を評価する																													
				DV01.5.3.4	システム方式設計における運用および保守の実現可能性を評価する																													
		DV01.6	システム方式設計（組込みソフトウェア）	DV01.6.1	システム方式の設計	DV01.6.1.1	システムのハードウェア構成を決定する												-	○	-	◎	○	◎	◎									
	DV01.6.1.2					ハードウェア、ソフトウェアにシステム化要件の機能要件、非機能要件を割り当てる																												
	DV01.6.1.3					外部インタフェースおよびシステムの構成要素間のインタフェースを定義する																												
	DV01.6.2			適用製品・技術の評価と選定	DV01.6.2.1	システム方式設計に準じて、利用候補となる技術、製品の性能や適合性を評価する													-	○	-	◎	○	◎	◎									
					DV01.6.2.2	システム方式設計に準じて、利用候補となるパッケージソフトウェアの機能や性能、適合性を評価する																												
					DV01.6.2.3	システム方式設計に準じて、利用候補となるPaaS、IaaS等のシステム稼働環境の性能や適合性を評価する																												
					DV01.6.2.4	利用する技術、製品、稼働環境等を選定し、その事由と実装リスク、前提条件を明らかにする																												

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール												
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）								ビジネスプロデューサー							プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム									
								ビジネスアナリシス							ビジネスアナリシス												
								プロジェクトマネージメント							プロジェクトマネージメント												
								ITアーキテクトチャレンジ							ITアーキテクトチャレンジ												
タスク大分類コード		タスク大分類		タスク中分類コード		タスク中分類		タスク小分類コード		タスク小分類		評価項目コード		評価項目		ビジネスプロデューサー		ビジネスアナリシス		プロジェクトマネージメント		ITアーキテクトチャレンジ		テクニカルエンジニアリング		ITサービスマネージメント	
		DV01.7	システム方式設計（Webサイ	DV01.6.3	システム方式設計の文書化とレビュー	DV01.6.3.1	システム方式およびシステム化要件との対応、インタフェース等をシステム方式設計書にまとめる									-	○	-	◎	○	◎	◎					
						DV01.6.3.2	すべての機能要件および非機能要件がハードウェア、ソフトウェアのいずれかに割り当てられていることを検証する																				
						DV01.6.3.3	システム方式設計におけるシステム化要件の実現可能性をハードウェアとソフトウェアの両面から評価する																				
				DV01.7.1	システム方式の設計	DV01.7.1.1	システム化要件を実現する最上位レベルの方式（前提とする稼働環境、ソフトウェア構成、手作業）を設計する								-	○	-	◎	○	◎	◎						
							DV01.7.1.2	システムの構成要素単位に機能要件、非機能要件を割り当てる																			
							DV01.7.1.3	外部インタフェースおよびシステムの構成要素間のインタフェースを定義する																			
				DV01.7.2	適用製品・技術の評価と選	DV01.7.2.1	システム方式設計に準じて、利用候補となる技術、製品の性能や適合性を評価する							-	○	-	◎	○	◎	◎							
							DV01.7.2.2	システム方式設計に準じて、利用候補となるPaaS、IaaS等のシステム稼働環境の性能や適合性を評価する																			
							DV01.7.2.3	利用する技術、製品、稼働環境等を選定し、その事由と実装リスク、前提条件を明らかにする																			
		DV01.7.3	システム方式設計の文書化とレビュー	DV01.7.3.1	システム方式およびシステム化要件との対応、インタフェース等をシステム方式設計書にまとめる								-	○	-	◎	○	◎	◎								
					DV01.7.3.2	すべての機能要件および非機能要件がいずれかのシステムの構成要素に割り当てられていることを検証する																					
					DV01.7.3.3	システム方式設計におけるシステム化要件の実現可能性を評価する																					
					DV01.7.3.4	システム方式設計における運用および保守の実現可能性を評価する																					
		DV01.8	開発準備	DV01.8.1	開発手法の決定と開発プロセスの定義	DV01.8.1.1	新システムの特性や開発体制、要員のスキル等を考慮して開発手法を選択する									-	○	-	○	◎	○						
						DV01.8.1.2	開発への着手から完成に到るまでの大きなイベントを記述する	◎				◎	◎														
						DV01.8.1.3	開発標準を踏まえて作業の方法や手順、文書化等のルールを定める																				
				DV01.8.2	開発環境の準備	DV01.8.2.1	新システムの特性にあった開発言語や開発環境を選択する	◎				◎	◎		-	○	-	○	◎	◎	◎						
						DV01.8.2.2	プログラムの開発やテストに必要な機器やツールを明らかにする																				
						DV01.8.2.3	開発環境を整備するために必要な費用を見積もる																				
		DV01.9	開発準備（アジャイル）	DV01.9.1	開発手法の決定と開発プロセスの定義	DV01.9.1.1	新システムの特性や開発体制、要員のスキル等を考慮して開発手法を選択する									-	○	-	○	◎	◎	◎					
						DV01.9.1.2	開発への着手から完成に到るまでの大きなイベントを記述する	◎				◎	◎														
						DV01.9.1.3	開発標準を踏まえて作業の方法や手順、文書化等のルールを定める																				
				DV01.9.2	開発環境の準備	DV01.9.2.1	新システムの特性にあった開発言語や開発環境を選択する								-	○	-	○	◎	◎	◎						
						DV01.9.2.2	プログラムの開発やテストに必要な機器やツールを明らかにする	◎				◎	◎														
						DV01.9.2.3	開発環境を整備するために必要な費用を見積もる																				

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール									
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）															プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム						
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント			
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目																	
DV04	基盤システム構築	DV04.1	基盤システム設計（共通）	DV04.1.1	アジャイル開発の準備	DV01.9.3.1	適用するプラクティスを適用可能な状況、効果、留意点等を踏まえて取捨選択する	◎					◎	◎	-	○	-	○	◎	◎	◎			
						DV01.9.3.2	要員の習熟度やプロジェクトの不確実性を考慮してイテレーションを設定する																	
						DV01.9.3.3	ユーザストーリーの完了判定基準を定め、関係者の同意を得る																	
						DV04.1.1		DV04.1.1.1	システム基盤の設計・構築の各工程で利用する技術標準や作成すべきドキュメントを決定する						◎	△	△	△	◎	◎	◎	△		
								DV04.1.1.2	システム基盤に対する機能要件、非機能要件、運用要件を満たす構成要素の組み合わせを検討し、基本モデルを選定する															
								DV04.1.1.3	システム基盤に起因するアプリケーション構築上の制約を提言する															
		DV04.2	基盤システム設計（プラットフォーム）	DV04.2.1	プラットフォーム設計	DV04.2.1.1	プラットフォームに対する機能要件、非機能要件、運用要件に基づき製品を選定する							◎	△	△	△	◎	◎	◎	△			
						DV04.2.1.2	プラットフォームに対する機能要件、非機能要件、運用要件に基づき物理構成を設計する																	
						DV04.2.1.3	ハードウェア、オペレーティングシステム、ミドルウェア等のコンポーネントごとのパラメータを設計する																	
						DV04.2.1.4	プラットフォーム設計書を作成し、設計が要件を満たし、コンポーネント間の不整合がないことをレビューする																	
		DV04.3	基盤システム設計（データベース）	DV04.3.1	物理データベース設計	DV04.3.1.1	データベースに対する機能要件、非機能要件、運用要件に基づき、DBMS製品を選定する							◎	△	△	△	◎	◎	◎	△			
						DV04.3.1.2	必要となるディスク容量を見積もる																	
						DV04.3.1.3	論理的なI/O試算を行い、性能面からボトルネックを検証する																	
						DV04.3.1.4	代替データベース、複数ディスクへの分散、データの格納順序、障害対策等を考慮してデータベースの物理的な配置を決定する																	
						DV04.3.1.5	レスポンスタイムを想定し、DBMS製品の特性を活かした性能調整（フィールド設計、テーブルの非正規化、インデックスの設定、ファイルアクセス効率の改善等）を行う																	
						DV04.3.1.6	機器の故障や災害や事故による障害に備えたデータのバックアップおよび回復の手段を決定する																	
				DV04.3.2	データベースの運用管理・保守の設計	DV04.3.2.1	監視対象、監視方法、システム管理要素を特定する						◎	△	△	△	◎	◎	◎	△				
						DV04.3.2.2	データベースの運用手続きを決定し、データベース運用管理計画を作成する																	
						DV04.3.2.3	全社標準およびシステム個別の要求事項を勘案して、データベースの保守方針を決定する																	
		DV04.4	基盤システム設計（ネットワーク）	DV04.4.1	ネットワークシステムの設計	DV04.4.1.1	サーバ、クライアント等のハードウェアの配置およびプロトコル、トポロジ等のネットワークアーキテクチャを決定し、予想されるネットワークの性能を評価する							◎	△	△	△	◎	◎	◎	△			
						DV04.4.1.2	セキュリティポリシーを認識し、セキュリティ対策を実現するために必要なネットワーク技術、機器を選定する																	
						DV04.4.1.3	機器や回線の故障、災害や事故による障害に備えたバックアップおよび回復の手段を決定する																	

[illegible]

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール																																																		
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりを実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム																																															
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント																																					
							DV04.7.1.3	コンポーネント単体の動作テストを実施し、正常動作を確認する																																																										
						DV04.7.2	テストの計画と実施	DV04.7.2.1																テストの要求事項と適用範囲を明らかにし、テスト仕様書を作成する																																										
								DV04.7.2.2																コンポーネントを結合し、正常に動作することを確認する																																										
								DV04.7.2.3																テストを実施し、性能、セキュリティ、バックアップ・リカバリ等が要件に適合することを確認する																															◎	△	△	△	◎	◎	◎	△				
								DV04.7.2.4																性能改善の観点から、必要に応じてチューニングを行う																																										
								DV04.7.2.5																テスト結果を評価し、支障があった場合にはプロジェクト関係者と連携をとって対応を検討し、改善する																																										
		DV04.8	基盤システム構築・テスト（データベース）	DV04.8.1	データベースの構築	DV04.8.1.1	DBMSのインストール、テーブルやインデックス、ユーザ等の作成、初期データの投入等を行う																																																											
						DV04.8.1.2	設計書に基づきデータベースのパラメータを設定する																		◎	△	△	△	◎	◎	◎	△																																		
						DV04.8.1.3	求められる性能等の要件を満たすための分析とチューニングを行う																																																											
		DV04.8.2	テストの計画と実施	DV04.8.2.1	テストの要求事項と適用範囲を明らかにし、テスト仕様書を作成する																																																													
				DV04.8.2.2	データベースアクセステストを実施し、性能、セキュリティ、インテグリティ、バックアップ・リカバリ等が要件に適合することを確認する																		◎	△																				△	△	◎	◎	◎	△																	
				DV04.8.2.3	テスト結果を評価し、支障があった場合にはプロジェクト関係者と連携をとって対応を検討し、改善する																																																													
		DV04.9	基盤システム構築・テスト（ネットワーク）	DV04.9.1	ネットワークの構築	DV04.9.1.1	作業計画に基づきネットワーク機器および回線の手配を行う																																																											
						DV04.9.1.2	ネットワーク機器や回線を設置してソフトウェアをインストールし、各々の機器および回線の接続、設定を行う																																			◎	△	△	△	◎	◎	◎	△																	
						DV04.9.1.3	求められる性能等の要件を満たすための分析とチューニングを行う																																																											

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール																			
<div>・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。</div> <div>本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりを実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。</div> <div>・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。</div> <div>◎：主体となって実施するタスク</div> <div>○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク</div> <div>△：実施にはかわらないが、タスクの情報を共有する</div> <div>-：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）</div>								従来型ロール							プロダクトオーナー	スクラムマスター	開発チーム																	
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント													
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目																											
		DV04.10	基盤システム構築・テスト（システム管理）	DV04.9.2	テストの計画と実施	DV04.9.2.1	テストの要求事項と適用範囲を明らかにし、テスト仕様書を作成する								△	△	△	◎	◎	◎	△													
						DV04.9.2.2	テストを実施し、性能、セキュリティ等が要件に適合することを確認する																											
						DV04.9.2.3	テスト結果を評価し、支障があった場合にはプロジェクト関係者と連携をとって対応を検討し、改善する																											
				DV04.10.1	運用管理システムの構築	DV04.10.1.1	運用管理ツールをインストールし、正常起動を確認する																					△	△	△	◎	◎	◎	◎
						DV04.10.1.2	設計書に基づき運用管理ツールのパラメータを設定する																											
						DV04.10.1.3	ジョブ制御プログラム（ジョブネット、スクリプト等）を作成する																											
				DV04.10.2	テストの計画と実施	DV04.10.2.1	テストの要求事項と適用範囲を明らかにし、テスト仕様書を作成する																					△	△	△	◎	◎	◎	◎
						DV04.10.2.2	テストを実施し、運用要件に適合することを確認する																											
						DV04.10.2.3	テスト結果を評価し、支障があった場合にはプロジェクト関係者と連携をとって対応を検討し、改善する																											
		DV04.11	基盤システム構築・テスト（情報セキュリティ）	DV04.11.1	セキュリティの実装	DV04.11.1.1	情報システムやネットワークの構成要素を識別し、それぞれの構成要素に対してセキュリティ製品を選択し導入する								△	△	△	◎	◎	◎	△													
						DV04.11.1.2	セキュリティ設計を実装する適当なセキュリティ製品が存在しない場合、必要に応じて独自にソフトウェア開発を行う																											
						DV04.11.1.3	セキュリティ設計仕様書に則ったセキュリティ対策を実装する																											
						DV04.11.1.4	情報保証の観点から、不適切に実装されたアプリケーション、システム、ネットワークの修正のための取り組みを実施させ、その実施状況を確認する																											
				DV04.11.2	テスト計画と実施	DV04.11.2.1	テストの要求事項と適用範囲を明らかにし、テスト仕様書を作成する							△	△	△	◎	◎	◎	△														
						DV04.11.2.2	テストを実施し、機密性、完全性、可用性等の要件に適合を確認する																											
						DV04.11.2.3	適切な手法やツールを用いて脆弱性の検査を行う																											
DV04.11.2.4	情報保証において、セキュリティ、回復力、信頼性の要件に関するシステムの適合性を測定、評価する																																	

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール									
タスク大分類コード		タスク中分類コード		タスク小分類コード		評価項目コード	評価項目								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリスト	プロジェクトマネージャ	ITアーキテクト	アプリケーションデザイナー	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャ	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリスト	プロジェクトマネージャ
<div>・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。</div> <div>本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。</div> <div>・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。</div> <div>◎：主体となって実施するタスク</div> <div>○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク</div> <div>△：実施にはかかわらないが、タスクの情報を共有する</div> <div>-：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）</div>																								
						DV04.11.2.5	テスト結果を評価し、支障があった場合にはプロジェクト関係者と連携をとって対応を検討し、改善する																	
						DV04.11.2.6	ISO/IEC 15408の定める手順に基づき、ソフトウェアおよびシステムのセキュリティ評価を行う																	
DV02	運用設計	DV02.1	システム運用設計	DV02.1.1	方針と基準の策定	DV02.1.1.1	業務の特性、利用技術や製品の特性を踏まえ、システム運用方針を定める									△	△	△	◎	◎	◎	◎		
						DV02.1.1.2	システム運用管理要件を踏まえ、運用基準を定める							◎	◎									
						DV02.1.1.3	システム運用管理要件を踏まえ、運用管理システムの要件を明らかにする																	
				DV02.1.2	システム運用設計とシ	DV02.1.2.1	業務の組織、要員、運用体制、運用フロー等の業務運用に基づきシステム運用方式をまとめる																	
						DV02.1.2.2	障害監視対象を明らかにし、システム監視方法を設計する																	
						DV02.1.2.3	システム運用管理要件を踏まえ、システム監視方式を設計する																	
						DV02.1.2.4	システム運用管理要件を踏まえ、バックアップ・リストア方式を設計する					◎	◎		△	△	△	◎	◎	◎	◎			
						DV02.1.2.5	災害発生を想定し、リスク分散や復旧の手順を設計する																	
						DV02.1.2.6	運用手順書（定常時、障害時、保守、更新、構成変更）を作成し、レビューする																	
						DV02.1.2.7	対象とするシステムの運用計画に、必要なセキュリティレベルを確保するために実施すべき情報セキュリティ対策を反映させる																	
		DV02.2	ITサービス設計	DV02.2.1	運用・保守サービスの設	DV02.2.1.1	運用・保守サービスの要件に基づき、サービスの内容とサービスレベルを運用・保守プランとして具体化する																	
						DV02.2.1.2	運用・保守プランの実行方法と体制を具体化し、コストを算出する																	
						DV02.2.1.3	運用・保守業務規定、実行に必要なマニュアル等のドキュメントを取りまとめる							○	○		△	△	△	◎	◎	◎	◎	
						DV02.2.1.4	システムを構成するソフトウェア（製品、アプリケーション）、ネットワーク、ハードウェア等の責任分界と連絡方法を明らかにする																	
						DV02.2.1.5	サービスの内容、提供時間帯、体制、セキュリティ、サービスレベル指標とその目標値等を定めたSLAを作成し、顧客と合意する																	
		DV02.3	Webサイト運用設計	DV02.3.1	Webサイトの運用設計	DV02.3.1.1	Webサイトで扱うコンテンツを洗い出し、コンテンツ管理者とその役割を明らかにする																	
						DV02.3.1.2	コンテンツの種類や関連性を踏まえた管理体制と承認手続き等のルールを定める																	
						DV02.3.1.3	コンテンツ制作、更新のプロセスや厳守すべき事項を定めたガイドラインや規定等を整備する									△	△	△	◎	◎	◎	◎		
						DV02.3.1.4	コンテンツへのアクセス情報等、Webサイトの評価指標を設定する																	
						DV02.3.1.5	Webサイトを使ったイベント等の実施に関する運用ルールを設定する																	
DV03	移行設計	DV03.1	移行設計	DV03.1.1	移行の要件と方針の明確化	DV03.1.1.1	移行の期間、環境、リソース等の制約条件を明らかにする																	
						DV03.1.1.2	移行作業において問題が発生した場合の方針（連絡体制、中止・既存システムへの切戻し、部分的な移動等）を明らかにする						◎	◎		○	○	△	◎	◎	◎	◎		
						DV03.1.1.3	移行作業の実施中に、業務や他のシステムに与える影響やリスクを明らかにし、関係者に説明して合意形成する																	
				DV03.1.2	移行対象の明確化	DV03.1.2.1	移行対象（業務、システム、データ、その他の設備）を明らかにする																	
						DV03.1.2.2	データのコンパート等、対象毎の移行方法と手順を定める						◎	◎		○	○	△	◎	◎	◎	◎		
						DV03.1.2.3	移行データやシステム動作等、対象毎の移行結果の検証方法を定める																	
				DV03.1.3	移行テスト計画の作成	DV03.1.3.1	移行ツールのテストの方針と方法を定める																	

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール								
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりを実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム					
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント			
						DV03.1.3.2	移行テスト環境の作成方針、システム構成、作成スケジュール等を定める					◎	◎		○	○	△	◎	◎	◎	◎			
						DV03.1.3.3	移行リハーサルの方法、実施形態、対象、範囲等を定め、移行リハーサル計画を立案する																	
				DV03.1.4	移行のスケジュールと体制の明確化	DV03.1.4.1	限られた時間の中で並行して複数の作業を実施するためのスケジュールを作成する																	
						DV03.1.4.2	ユーザ（業務担当者）を含む移行の体制と役割分担を定める					◎	◎		○	○	△	◎	◎	◎	◎			
						DV03.1.4.3	移行のスケジュールと体制、役割分担を関係者に説明し、合意形成する																	
DV05	アプリケーションシステム開発	DV05.1	ソフトウェア要件定義	DV05.1.1	機能要件と非機能要件の定	DV05.1.1.1	業務の進め方や業務同士の連携等、ビジネスプロセスに関する要件を定める																	
						DV05.1.1.2	ビジネスプロセス単位の機能要件を定める								◎	◎		△	◎	◎	◎	◎		
						DV05.1.1.3	ビジネスプロセス単位の性能、信頼性、使用性、効率性、保守性、移植性等の非機能要件を定める					◎			◎	◎								
						DV05.1.1.4	検討結果と成果物に基づき、プロセスモデルを作成する																	
				DV05.1.2	インタフェース要件の定義	DV05.1.2.1	データの受け渡しを行う他の業務および受け渡しを行うデータを抽出する																	
						DV05.1.2.2	データの受け渡しの方向（入力、出力、入出力）、手段、方法、タイミングを検討する																	
						DV05.1.2.3	バックアップ、リカバリに関するデータファイル保全方式を検討する					◎			◎	◎		△	◎	◎	◎	◎		
						DV05.1.2.4	サブシステム間や他システムとのインタフェースの要件を定める																	
						DV05.1.2.5	ユーザビリティを考慮してユーザインタフェースの要件を定める																	
				DV05.1.3	概念データモデルの作成	DV05.1.3.1	システム化対象範囲のすべてのデータを分析し、管理すべきデータを抽出する																	
						DV05.1.3.2	ビジネスルールを踏まえて、システム化対象範囲のデータ構造をER図にまとめる					◎			◎	◎		△	◎	◎	◎	◎		
						DV05.1.3.3	データ（エンティティ）とビジネスプロセス（機能）との関連をCRUD図にまとめ、データライフサイクルを検証する																	
				DV05.1.4	ソフトウェア要件の評価	DV05.1.4.1	システム要件およびシステム方式設計への追跡可能性を評価する																	
						DV05.1.4.2	システム要件との外部一貫性を評価する																	
						DV05.1.4.3	ソフトウェア要件の内部一貫性およびテスト可能性を評価する					◎			◎	◎		△	◎	◎	◎	◎		
						DV05.1.4.4	ソフトウェア方式設計の実現可能性を評価する																	
						DV05.1.4.5	運用および保守の実現可能性を評価する																	
				DV05.1.5	パッケージ利用時のフィット&ギャップ	DV05.1.5.1	機能要件に対するパッケージ機能の網羅性を検証する																	
						DV05.1.5.2	外部インタフェース要件に対するパッケージの外部インタフェースの網羅性を検証する																	
						DV05.1.5.3	概念データモデルに対するパッケージデータモデルの適合性を検証する					◎			◎	◎		△	◎	◎	◎	◎		
						DV05.1.5.4	機能、外部インタフェース、データ構造の適合性と網羅性の検証結果により、パッケージの利用可否を判断する																	
						DV05.1.5.5	パッケージを利用する場合は、カスタマイズやアドオンの範囲および各要件変更箇所を決定し、ソフトウェア要件定義に反映する																	

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール										
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）															プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム							
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント
		DV05.2	ソフトウェア方式設計	DV05.2.1	ソフトウェアコンポーネントの方式設計	DV05.2.1.1	ソフトウェア要件定義で定義されたビジネスプロセスをコンポーネントに分割する									△	△	△	◎	◎	◎	◎			
						DV05.2.1.2	すべてのソフトウェア要件が分割されたコンポーネントのいずれかに割り当てられることを確認する					◎													
						DV05.2.1.3	分割されたコンポーネント毎に実現方式を設計する																		
				DV05.2.2	インタフェースの方式設計	DV05.2.2.1	分割されたコンポーネント間のインタフェースの実現方式を設計する												△	△	△	◎	◎	◎	◎
						DV05.2.2.2	分割されたコンポーネントのユーザインタフェースの実現方式を設計する					◎						△	△	△	◎	◎	◎	◎	
						DV05.2.2.3	バックアップ、リカバリに関するデータファイル保全方式の手続きを設計する																		
				DV05.2.3	論理データベース設計（論理データモデルの作	DV05.2.3.1	概念データモデルで確定した対象範囲について、既存のデータベースやファイル、帳票、画面等、関連する情報から項目レベルでデータを捕捉し、整理する																		
						DV05.2.3.2	整理されたデータ項目と概念データモデルをもとに、ビジネスの視点でより詳細なER図（論理データモデル）を作成し、データを正規化する																		
						DV05.2.3.3	ビジネスルールと論理データモデルを照らし合わせて、モデルの整合性や安定性を検証する					◎					△	△	△	◎	◎	◎	◎		
						DV05.2.3.4	システムの処理とデータとの関連をCRUD図にまとめ、構造面からボトルネックを検証する																		
				DV05.2.4	コード設計	DV05.2.4.1	コード化の対象とするデータを選定する																		
						DV05.2.4.2	コード化する目的と利用範囲を明らかにする																		
						DV05.2.4.3	データ量や管理のしやすさを想定したうえでコードを決定する					◎					△	△	△	◎	◎	◎	◎		
						DV05.2.4.4	コード体系を決定し、コード表を作成する																		
				DV05.2.5	データサービスを活用した	DV05.2.5.1	各種データ提供者の提供する外部データの適合性を検討する																		
						DV05.2.5.2	外部データサービスとの連携方式およびデータ構造、インタフェースの標準化と共有化を検討する					◎					△	△	△	◎	◎	◎	◎		
						DV05.2.5.3	外部データサービスと連携するプログラムおよびモジュールの共有化を検討する																		
						DV05.2.5.4	検討結果をもとにデータサービスを活用した方式設計を行う																		
				DV05.2.6	パッケージのカスタマイズ方針の決定	DV05.2.6.1	ソフトウェア要件定義で定義されたカスタマイズの範囲をもとに、カスタマイズの内容を決定する																		
						DV05.2.6.2	ソフトウェア要件定義で定義されたアドオンの範囲をもとに、アドオンの機能を決定する																		
						DV05.2.6.3	パッケージおよびアドオン機能とのデータ連携、インタフェースの標準化と共有化を検討する					◎					△	△	△	◎	◎	◎	◎		
						DV05.2.6.4	検討結果をもとに、アドオン機能に関する方式設計を行う																		
	DV05.3	開発環境構築		DV05.3.1	開発環境構築計画の立案	DV05.3.1.1	稼働予定の環境との同一性や類似性、開発独自の要求等を踏まえて開発環境要件としてまとめる																		

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール						
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりを実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム			
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリスト	プロジェクトマネージャ	ITアーキテクト	アプリケーションデザイナー	テクニカルエンジニアリング	ITサーバービスマネジメント
		DV05.4	アプリケーション共通基盤設計・構築	DV05.4.1	アプリケーション共通基盤の設計	DV05.3.1.2	開発スケジュール（時期、利用リソース）との整合性や費用等の制約に基づき、開発環境の構築計画を作成する					◎			-	-	△	◎	◎	◎	△	
						DV05.3.1.3	開発するソフトウェアの構成管理、セキュリティ、開発およびリリースに関するルール設定等のリスク要件を意識した構築計画を作成する															
						DV05.3.2	開発環境の構築と維持	DV05.3.2.1	開発環境の構築計画に基づき、必要なリソースを調達して環境を構築する													
								DV05.3.2.2	開発環境の利用時から利用完了まで、必要な環境を維持できるように、リソースの確保と保守を実施する				◎			-	-	△	◎	◎	◎	△
								DV05.3.2.3	スケジュールや仕様の変更、稼働環境条件の変更等が発生した場合は、速やかに開発環境や計画への影響を検証し、対処する													
						DV05.4.1	アプリケーション共通基盤の設計	DV05.4.1.1	アプリケーション共通基盤（アプリケーションフレームワーク、実装ガイドライン、サンプルプログラム、開発ツール等）の機能要件を明らかにする													
				DV05.4.1.2	アプリケーション共通基盤とその他の機能の分界を明らかにする							◎										
				DV05.4.1.3	機能要件と分界に基づき、アプリケーション共通基盤を設計する									-	-	△	◎	◎	◎	△		
				DV05.4.1.4	アプリケーションシステムの可用性、性能、拡張性、セキュリティ等の要件を実現するアプリケーション共通基盤を設計する																	
				DV05.4.2	アプリケーション共通基盤の構築・テスト	DV05.4.2.1	設計を踏まえ、アプリケーション共通基盤を構築する															
						DV05.4.2.2	開発環境上でアプリケーション共通基盤の検証を行う				◎			-	-	△	◎	◎	◎	△		
						DV05.4.2.3	アプリケーション共通基盤の維持、管理を行う															
		DV05.4.3	アプリケーション構築の支援	DV05.4.3.1	アプリケーション共通基盤に関する開発者向けマニュアルを作成する																	
				DV05.4.3.2	開発環境と利用方法、条件を説明し、適切な利用ができるように指導する																	
				DV05.4.3.3	アプリケーション共通基盤の各機能とインタフェースを説明し、仕様に則した利用ができるように指導する				◎			-	-	△	◎	◎	◎	△				
				DV05.4.3.4	アプリケーション共通基盤の運用管理において、適格性および安全性を確保する																	
		DV05.5	業務プロセス設計	DV05.5.1	業務プロセスの設計	DV05.5.1.1	実装を意識して、ソフトウェア要件定義で作成したプロセスモデルを見直す															
						DV05.5.1.2	ユーザビリティを考慮して業務プロセスを設計する															
						DV05.5.1.3	業務プロセスの粒度（抽象度、詳細度）を揃える				◎			-	-	△	◎	◎	◎	△		
						DV05.5.1.4	プロセスモデルと論理データモデルとの整合性を確保する															
						DV05.5.1.5	プロセス単位に、担当者および関係者や組織とソフトウェアの責任分担を明らかにし、それぞれの振る舞いをまとめる															
		DV05.6	ソフトウェア詳細設計		DV05.6.1	ソフトウェアコンポーネント設計（機能分割・構造	DV05.6.1.1	ソフトウェア方式設計で定義したコンポーネントをコーディング、コンパイル、テストの実施に最適な単位のユニットに詳細化する														
							DV05.6.1.2	すべてのソフトウェア要件が、コンポーネントからユニットへ割り当てられることを確認する				◎			-	-	△	◎	◎	◎	△	

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール												
															プロダクトオーナー		スクラムマスター		開発チーム								
<div>・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。</div> <div>本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。</div> <div>・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。</div> <div>◎：主体となって実施するタスク</div> <div>○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク</div> <div>△：実施にはかかわらないが、タスクの情報を共有する</div> <div>-：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）</div>								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント						
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目																				
						DV05.6.1.3	詳細化されたユニット単位に詳細設計を行う																				
						DV05.6.2	入出力詳細設計	DV05.6.2.1	コンポーネント間のインタフェースの詳細設計を行う																		
								DV05.6.2.2	コンポーネント毎のユーザインタフェースの詳細設計を行う							◎				-	-	△	◎	◎	◎	△	
								DV05.6.2.3	バックアップ、リカバリに関するデータファイル保全処理の詳細設計を行う																		
						DV05.6.3	パッケージカスタマイズ・アドオン設計	DV05.6.3.1	ソフトウェア方式設計で定義したカスタマイズの内容に基づき、パラメータの設定を決定する																		
								DV05.6.3.2	ソフトウェア方式設計で定義したアドオン機能の詳細設計を行う																		
								DV05.6.3.3	パッケージおよびアドオン機能とのインタフェースの詳細設計を行う																		
						DV05.6.4	データサービスの活用	DV05.6.4.1	外部データサービスとの連携方式およびデータ構造、インタフェースの詳細設計を行う																		
								DV05.6.4.2	外部データサービスと連携するプログラムおよびモジュールを共有化し、詳細設計を行う																		
								DV05.6.4.3	外部データの取り込みや加工のロジックを決定し、詳細設計を行う																		
						DV05.7	ソフトウェアコード作成・単体テスト	DV05.7.1	プログラム構造設計（モジュール分割・モジュール	DV05.7.1.1	ソフトウェア詳細設計で定義したユニットをもとに、プログラムを構成するすべてのモジュールを定義する																
		DV05.7.1.2	定義されたモジュール間の階層構造を定義する																								
		DV05.7.1.3	モジュール間のインタフェースを定義する																								
		DV05.7.1.4	類似するモジュール、変数、定数等の共有化を検討する																								
		DV05.7.2	単体テスト仕様作成	DV05.7.2.1	モジュール単位のテスト密度と網羅性を定め、単体テスト計画書を作成する																						
				DV05.7.2.2	プログラムの機能と目的を理解したうえで、モジュール単位に定められたテスト密度、網羅性に基づいて単体テストケースを洗い出す																						
				DV05.7.2.3	単体テストに必要な体制、環境等のリソースを明らかにし、準備作業を含めたスケジュールを作成する																						
				DV05.7.2.4	選定した単体テストケース、単体テストの目標、評価基準、問題への対応方法を盛り込んだ単体テスト仕様書を作成する																						
		DV05.7.3	プログラミング	DV05.7.3.1	コーディング規約、命名規則、レビュー記録、バージョン管理などの開発標準を遵守してコーディングを行う																						
				DV05.7.3.2	設計書（詳細設計書、プログラム仕様書）に基づいたコーディングを行う																						
				DV05.7.3.3	作成するプログラムの機能を理解し、APIや再利用、代替プログラムを活用する																						

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール										
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）															プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム							
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージャメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージャメント				
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	DV05.7.3.4	データ構造を理解し、データアクセス技術（SQL）を活用してプログラムを作成する					◎				-	-	△	◎	◎	◎	△		
							DV05.7.3.5	処理速度を意識してプログラムを作成する																	
							DV05.7.3.6	セキュリティホールへの対策を理解して、セキュアなプログラムを作成する																	
							DV05.7.3.7	デバッグの手法やデバッグなどの有効な手段を活用してプログラミング上の欠陥や誤りを発見し、修正を行う																	
							DV05.7.3.8	プログラムのデグレードが発生しないための管理方法を理解し、実践する																	
						DV05.7.4	単体テストの実施と評価	DV05.7.4.1	単体テスト計画に則したテストデータやスタブの作成等のテスト準備を実施する																
								DV05.7.4.2	単体テスト計画に則したテストを実施し、テストツールを利用してデバッグする					◎			-	-	△	◎	◎	◎	△		
								DV05.7.4.3	単体テストの結果から、プログラムが仕様通りに動作することを評価し、テストの完了を判断する																
						DV05.8	ソフトウェア結合テスト	DV05.8.1	結合テスト仕様作成	DV05.8.1.1	必要な資源、スケジュール、評価基準、テスト手順等を盛り込んだ結合テスト計画書を作成する														
										DV05.8.1.2	結合テストの責任者を明らかにし、テスト担当者、修正担当者等のテストチームを編成する					◎			-	-	△	◎	◎	◎	△
				DV05.8.1.3	複数の単体プログラムにまたがる一連の処理やそのインタフェースを確認できるテスト仕様書を作成する																				
				DV05.8.2	ソフトウェア結合			DV05.8.2.1	本番環境と物理的、論理的に隔離されたテスト環境を構築する																
								DV05.8.2.2	各コンポーネントをソフトウェア設計に則して結合し、動作可能な環境を構築する					◎			-	-	△	◎	◎	◎	△		
						DV05.8.2.3	ソフトウェア結合環境の制約、制限と動作確認への影響を明らかにする																		
				DV05.8.3	結合テストの実施と評価	DV05.8.3.1	結合テスト仕様を満たすテストデータを、データ作成プログラム等も活用しながら準備する																		
		DV05.8.3.2	個々の結合テストの結果を踏まえて、以降のテストの保留や再開等、状況に応じた判断を行う																						
		DV05.8.3.3	結合テストで発見した問題の内容と想定される原因、再現方法等を報告する							◎			-	-	△	◎	◎	◎	△						
		DV05.8.3.4	解決された不具合の対応結果を、その影響範囲を見極めたうえで検証する																						
		DV05.8.3.5	テスト結果のエビデンスを残し、結合テストの実施結果を報告する																						
		DV09	システムテスト	DV09.1	システムテスト計画策定	DV09.1.1	システムテスト計画の作成	DV09.1.1.1	システム要件およびシステム方式に準じて、テスト方針を定める																
DV09.1.1.2	システム要件およびシステム方式に準じて、システムの適格性要求事項を設定する																								
DV09.1.1.3	システム要件およびテスト方針に基づき、テスト仕様、テストケースとテストデータの作成基準、テスト体制等を含むシステムテスト計画書をまとめる											◎	◎		△	△	△	◎	◎	◎	◎				
DV09.1.1.4	必要な資源、スケジュール、評価基準、問題への対応方法をシステムテスト計画に盛り込む																								
DV09.1.2	システムテストの準備					DV09.1.2.1	各々の機能の特性に即し、システム要件を網羅したテストケースを設定する																		
		DV09.1.2.2	性能要件として定められた事項に適したテスト環境、状態を定義し、目標性能と共にテストケースを設定する																						
		DV09.1.2.3	システムテスト計画書に基づき、テストに必要な資源（ツール、コンピュータ資源、要員、体制等）を手配する					◎	◎		△	△	△	◎	◎	◎	◎								
		DV09.1.2.4	検証すべきテストケースに適したテストデータをデータ作成プログラム等も活用しながら準備する																						

[illegible]

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール																										
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）															プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム																							
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリスト	プロジェクトマネージャー	ITアーキテクト	アプリケーションデザイナー	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリスト	プロジェクトマネージャー	ITアーキテクト	アプリケーションデザイナー	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント																				
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目																																		
							DV11.2.2.2	切り戻しのポイントと条件、手順を検証する					◎	◎		△	△	△	△	◎	◎	○																			
							DV11.2.2.3	移行の所用時間を測り、ボトルネックを確認する																																	
							DV11.2.2.4	システムの移行だけでなく、業務の移行も正しく行われることを検証する																																	
							DV11.2.2.5	移行に要した時間、発生したトラブル、改善項目を記録し、移行計画を改善する																																	
					DV11.2.3	移行の実施	DV11.2.3.1	移行計画に基づいた作業を実施し、作業状況や発生した課題を随時報告する						◎	◎	△	△	△	△	◎	◎	○																			
							DV11.2.3.2	移行データやシステムの動作に対して、移行計画に基づいた検証を行う																																	
							DV11.2.3.3	移行計画やタイムスケジュールに基づいた移行を推進する																																	
							DV11.2.3.4	問題が発生した際、計画に基づいた作業の中止、切り戻し等の判断や、定められた連絡体制に基づいた連絡と対策の提示を行う																																	
					DV11.2.3.5	移行計画に基づき、移行完了を判断する																																			
						DV11.2.3.6																			引継ぎに必要なドキュメントを作成し、運用担当へ引き渡す																
						DV11.3.1																			教育準備と実施	DV11.3.1.1	システムの運用、保守、利用のための教育プログラムを作成する						◎	◎	○	△	△	△	◎	◎	○
																										DV11.3.1.2	教育プログラムを効果的に実施するためのマニュアルや教材を用意する														
				DV11.3.1.3	教育プログラムを実施し、技術移転の成果を測定して必要な補足教育を計画、実施する																																				
				DV11.3.2	マニュアルの作成	DV11.3.2.1	ユーザのニーズに基づき、導入したシステムの利用、運用、保守にかかわるマニュアル体系を整備する							◎	◎	○	△	△	△	◎	◎	○																			
						DV11.3.2.2	目的や対象者、マニュアルが使用される状況等に合致したマニュアルを作成もしくは入手する																																		
						DV11.3.2.3	システム要件と開発ドキュメント、テスト結果と照らし合わせて、作成したマニュアルを精査する																																		
				DV11.3.3	本稼働	DV11.3.3.1	システムテスト、受入れテスト、移行テストの結果、および運用に必要な教育やマニュアル整備の状況に基づき、本稼働の可否を判断する							◎	◎	○	△	△	△	◎	◎	○																			
						DV11.3.3.2	関係者に本稼働のスケジュール、連絡体制、障害発生時の対応方法等を周知する																																		
						DV11.3.3.3	安定稼働までの監視体制を構築し、稼働状況を監視・検証する																																		
				DV12	ソフトウェア保守	DV12.1	保守の方針と計画の策定	DV12.1.1	保守および更新・構成変更の方針策定	DV12.1.1.1	業務の特性、利用技術、製品の特性を踏まえて、システムの保守方針を定める						○	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎																
DV12.1.1.2	全社標準、そしてシステム個別の要求事項を勘案して、データベースの保守方針を定める																																								
DV12.1.1.3	全社の標準、そしてシステム個別の要求事項を勘案して、ネットワークシステムの保守方針を定める																																								
DV12.1.2	保守計画の策定	DV12.1.2.1	保守計画（体制、スケジュール等）を作成し、運用および保守の責任者の承認を得る											◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎																				
		DV12.1.2.2	情報資産のシステムライフサイクルを把握し、資産の償却期間を考慮した保守計画を作成する																																						
		DV12.1.2.3	開発環境の構築等、開発業務から引き継いだテスト環境を利用するための準備を行う																																						
		DV12.1.2.4	変更されたコンポーネントの受入れ基準を明らかにし、テストの内容やレビュー方法を運用および開発責任者と合意する																																						
DV12.2	問題の調査と分析	DV12.2.1	問題の把握			DV12.2.1.1	報告された問題に関する事実、現象と発生環境を分析し、派生する他の現象や原因の候補を洗い出す						○	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎																				
						DV12.2.1.2	原因を特定するための情報とその入手方法を明らかにし、可能な方法を実行する																																		
						DV12.2.1.3	収集した情報から問題の原因を絞り込み（または特定し）、問題の拡大を回避する方法や代替策を明らかにする																																		

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール												
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）								従来型ロール							プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム									
								ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント						
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目																				
				DV12.2.2	保守内容、影響範囲の調査と分析	DV12.2.2.1	保守の要求事項を確認し、影響範囲や費用対効果を調査、分析して、保守要件として具体化する																				
						DV12.2.2.2	保守対象ドキュメント、プログラム、データ等の分析結果を記録する						○	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎					
						DV12.2.2.3	変更依頼を作成し、ユーザおよび保守の責任者の承認を得る																				
DV15	プロジェクトマネジメント	DV15.1	プロジェクト立ち上げ	DV15.1.1	プロジェクト企画書の作成	DV15.1.1.1	プロジェクトの目的、目標、成果物を明らかにする																				
						DV15.1.1.2	プロジェクトの実施期限とマイルストーンを明らかにする																				
						DV15.1.1.3	プロジェクトの体制と要員計画の概要および必要な資源を明らかにする	◎							◎	○	◎	○	○	○	○	○					
						DV15.1.1.4	プロジェクトの課題とリスクを明らかにする																				
						DV15.1.1.5	審査担当者、決裁者が判断しやすいように企画の要点を記述する																				
				DV15.1.2	プロジェクト企画書の申請と説明	DV15.1.2.1	プロジェクト企画書を必要な関係者に配布し、承認の手続きをとる																				
						DV15.1.2.2	プロジェクト企画書の説明と質疑応答を行い、必要な関係者の理解を得る	◎							◎	○	◎	○	○	○	○	○					
						DV15.1.2.3	承認手続きを通じて設定された制約が支障とならないことを確認する																				
				DV15.1.3	プロジェクト企画書の完成	DV15.1.3.1	組織体における実行可能性を検討する																				
						DV15.1.3.2	プロジェクトマネージャを任命し、その役割、任務、権限を明らかにする	◎							◎	○	◎	○	○	○	○	○					
						DV15.1.3.3	プロジェクトマネージャに企画内容をプロジェクトの初期要求として伝える																				
				DV15.2	プロジェクト計画策定	DV15.2.1	スコープ計画の策定	DV15.2.1.1	プロジェクト成果を組織体の経営戦略、事業戦略等に貢献するものとして明らかにする																		
								DV15.2.1.2	ユーザに対する品質保証基準としての満足度基準を明らかにする																		
								DV15.2.1.3	プロジェクト推進組織が果たすべき役割と任務を明らかにする																		
								DV15.2.1.4	成果物、費用、期間、品質、利用者、規模、機能、技術、リスク等のプロジェクト情報を定義し、範囲を明らかにする	◎							◎	○	◎	○	○	○	○	○			
								DV15.2.1.5	プロジェクト推進の前提条件および制約事項を明らかにする																		
								DV15.2.1.6	プロジェクト計画および実行時に解決すべき課題を明らかにする																		
								DV15.2.1.7	スコープ管理方針を提示する																		
						DV15.2.2	プロジェクト方針の決定	DV15.2.2.1	システムの特性に適合したライフサイクルモデルを選定する																		
								DV15.2.2.2	システムの特性に適合したシステム開発技法、システム開発環境を選定する	◎							◎	△	◎	○	○	○	○	○			
								DV15.2.2.3	プロジェクト方針の代替案を提示する																		
						DV15.2.3	スコープの定義	DV15.2.3.1	プロジェクトの目的、目標を明らかにし、関係者に説明する																		
								DV15.2.3.2	プロジェクトの前提条件、制約条件を明らかにし、関係者に説明する																		
								DV15.2.3.3	プロジェクト全体の作業を概要レベルタスクに分解し、WBSを作成する	◎							◎	△	◎	○	○	○	○	○			
								DV15.2.3.4	概要レベルタスク遂行の優先順位を明らかにし、その基準を関係者に説明する																		

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール									
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム						
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクチャデザイン	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント
				DV15.2.4	スケジュール計画の策定	DV15.2.3.5	各タスクの成果物を定義する																		
						DV15.2.4.1	スケジュール管理が可能な規模の詳細レベルタスクを定義する																		
						DV15.2.4.2	主要成果物の完了時期や評価会議の時期等を含むマイルストーンを定義する																		
						DV15.2.4.3	詳細レベルタスク間の相互依存関係を考慮した実施順序を設定する																		
						DV15.2.4.4	作業実施時間の見積りを見積り基準に照らして設定する	◎		◎						◎	△	◎	○	○	○	○			
						DV15.2.4.5	クリティカルパス、リードタイム（作業の着手から完了までの期間）や、遅れの許容範囲を含めた作業実施時間を見積る																		
				DV15.2.4.6	スケジュールリスクを明らかにし、スケジュールの代替案を提示する																				
				DV15.2.5	資源計画の策定	DV15.2.5.1	プロジェクトに必要なとなる主要な資源の利用根拠を明らかにする																		
						DV15.2.5.2	必要な資源に関する質、投入・調達の量および時期を定義する																		
						DV15.2.5.3	調達先に対する調査、分析、評価を行う	◎		◎						◎	△	◎	○	○	○	○			
						DV15.2.5.4	資源計画に関する代替案を提示する																		
						DV15.2.5.5	資源投資リスクを明らかにする																		
				DV15.2.6	組織要員計画の策定	DV15.2.6.1	プロジェクト組織の役割と責任を定義する																		
						DV15.2.6.2	プロジェクト組織を適正な規模のチームに分割し、チームの役割、クリティカルスキルおよび責任を明らかにする																		
						DV15.2.6.3	知識、スキル、経験、生産性、志向、性格等を考慮し、プロジェクトの特徴に適合する適材適所の要員配置を行う	◎		◎						◎	△	◎	○	○	○	○			
						DV15.2.6.4	組織要員計画に関する代替案を提示する																		
						DV15.2.6.5	組織編制および要員配置リスクを明らかにする																		
				DV15.2.7	調達計画の策定	DV15.2.7.1	プロジェクトスコープから、外部調達すべき範囲と必要性を明らかにする																		
						DV15.2.7.2	情報システムベンダの特質、力量、実績等の現状を調査する																		
						DV15.2.7.3	調達先に要求すべき特質、力量、実績を明らかにする	◎		◎						◎	△	◎	○	○	○	○			
						DV15.2.7.4	プロジェクトの特徴に適合した調達の形態を検討して調達仕様を定義し、文書化する																		
						DV15.2.7.5	調達リスクを明らかにする																		
				DV15.2.8	費用計画の策定	DV15.2.8.1	プロジェクトスコープから作業に必要な人員、機器等の資源を洗い出し、必要な金額を積算する																		
						DV15.2.8.2	金額および出費の時期を明らかにする																		
						DV15.2.8.3	プロジェクトの予算内において、積算した必要金額の調整を行い、実行可能な予算計画を策定する	◎		◎						◎	◎	◎	○	○	○	○			
						DV15.2.8.4	費用リスクを明らかにする																		
				DV15.2.9	品質保証計画の策定	DV15.2.9.1	プロジェクトに求められる品質特性を理解し、品質方針と達成目標（品質基準）を定める																		
						DV15.2.9.2	品質を作り込む手段としての開発プロセス、アーキテクチャ、基準、規約等を選択または決定する																		
						DV15.2.9.3	品質保証のための組織構造、責任、プロセス、資源等を明らかにし、品質保証計画を策定する	◎		◎						◎	△	◎	○	○	○	○			
						DV15.2.9.4	品質リスクを明らかにする																		
				DV15.2.10	リスク管理計画の策定	DV15.2.10.1	プロジェクトにかかわる主要なリスク（スケジュール、資源計画、組織・要員、調達、費用、品質）を想定する																		

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール									
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）															プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム						
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント			
						DV15.2.10.2	リスクの発生確率や影響範囲を定量化する	◎		◎					◎	○	◎	○	○	○	○			
						DV15.2.10.3	リスクがプロジェクトに与える影響度を計り、対応の優先順位を決定し、対応策を立案する																	
						DV15.2.10.4	リスク発生の予防策を計画し、詳細レベルタスクに組み込む																	
						DV15.2.10.5	不測事態対応計画を策定する																	
						DV15.2.10.6	リスク発生を監視、追跡し、コントロールするための管理表を作成する																	
					DV15.2.11	コミュニケーション計画の策定	DV15.2.11.1	収集と伝達が必要なプロジェクト情報、関係者への伝達手段を定義する	◎		◎					◎	△	◎	○	○	○	○		
							DV15.2.11.2	関係者間のコミュニケーションと情報伝達を図るための仕組みやルールを定義する																
							DV15.2.11.3	プロジェクト情報の報告方法を定義する																
							DV15.2.11.4	収集したプロジェクト情報の分類と保管のためのルールを定義する																
					DV15.2.12	プロジェクト計画書の作成	DV15.2.12.1	プロジェクトの目的、目標、成果物、推進体制を定める	◎		◎					◎	△	◎	○	○	○	○		
							DV15.2.12.2	プロジェクトの実行に際しての前提や制約を明らかにする																
							DV15.2.12.3	プロジェクト状況報告の方法およびその承認ルールを定める																
							DV15.2.12.4	問題発生時の対応策に関する承認ルールを定める																
							DV15.2.12.5	プロジェクトの監視、追跡およびプロジェクト管理の方針を定める																
							DV15.2.12.6	各工程の完了条件およびユーザによる検収条件を定める																
				DV15.2.12.7	プロジェクト計画書を作成し、必要な関係者の承認を得る																			
				DV15.3	プロジェクト追跡と実行管理	DV15.3.1	プロジェクトの実行管理	DV15.3.1.1	プロジェクトが計画通りに推移するようコントロールする	◎		◎						◎	△	◎	◎	◎	◎	◎
								DV15.3.1.2	計画と実施の差異に対して、必要な是正策を実施する															
								DV15.3.1.3	計画の変更が承認された場合、変更を確実に実施し、その効果を追跡する															
						DV15.3.2	プロジェクトの監視と追跡	DV15.3.2.1	すべてのプロジェクト実行管理要素の監視および追跡方法を明らかにする	◎		◎					◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	
								DV15.3.2.2	監視および追跡の頻度を明らかにし、必要な時期に手順通りに監視および追跡を行う															
								DV15.3.2.3	すべての異常な進行、異常の予兆を発見し、分析する															
						DV15.3.3	問題管理	DV15.3.3.1	プロジェクト推進中のすべての問題を識別し、適切な情報を収集して分析する	◎		◎						◎	△	◎	◎	◎	◎	
								DV15.3.3.2	問題の重要性を識別し、影響を推定する															
								DV15.3.3.3	発生した問題に対して、必要に応じて対策を講じる															
								DV15.3.3.4	大きな問題は変更管理の対象として処理する															
								DV15.3.3.5	発生した問題に類似する他の問題の潜在性を検証する															

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール							
*本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりを実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム				
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー
				DV15.3.4	工程完了評価	DV15.3.3.6	発生したすべての問題および解決の過程を文書化する																
						DV15.3.4.1	スケジュール計画で決められた期日に、工程完了条件項目に沿ってレビューおよび評価を実施する	◎		◎						◎	○	◎	◎	◎	◎		
						DV15.3.4.2	レビューおよび評価を行うための情報を収集する																
						DV15.3.4.3	工程内で認識した改善事項を、以降の工程で有効活用する																
						DV15.3.4.4	レビューおよび評価結果を文書化する																
				DV15.3.5	プロジェクト状況の報告	DV15.3.5.1	成果物、プロジェクトの進行状況、組織活動、プロジェクト管理の結果を文書化し、報告する	◎		◎					◎	○	◎	◎	◎	◎			
						DV15.3.5.2	重要な問題の発生とその対応結果を文書化し、報告する																
						DV15.3.5.3	承認された変更管理の実施状況およびその結果を文書化し、報告する																
				DV15.3.6	進捗管理	DV15.3.6.1	最優先で管理すべき作業工程（クリティカルパス）を把握する	◎		◎					◎	○	◎	◎	◎	◎			
						DV15.3.6.2	マイルストーンにおける目標達成状況を確認する																
						DV15.3.6.3	進捗遅延に対する対策を講じる																
						DV15.3.6.4	プロジェクト全体の進捗に大きな影響を与える遅延に対しては、スケジュール変更を計画し、承認を受けて実施する																
				DV15.3.7	資源管理	DV15.3.7.1	資源を計画通りに投入配置し、活用する	◎		◎					◎	△	◎	△	△	△			
						DV15.3.7.2	資源の過不足が識別された場合、対応策を講じる																
						DV15.3.7.3	プロジェクトの全体の進捗に大きな影響を与える資源不足に対しては、資源変更を計画し、承認を受けて実施する																
				DV15.3.8	組織要員管理	DV15.3.8.1	要員とチームにおける効率性、負荷バランス、技術水準、協調体制、意思疎通およびプロジェクト管理方式等に関する評価を行う	◎		◎					◎	△	◎	△	△	△			
						DV15.3.8.2	各チームの要員に過不足がないかを監視し、過不足が生じた場合は、調達、配置転換等の対応を立案する																
						DV15.3.8.3	要員とチームが役割と責任を果たし、業務を遂行するための施策を講じる																
				DV15.3.9	調達管理	DV15.3.9.1	外部調達選定基準に照らして最適な外部委託先を選定する	◎		◎					◎	△	◎	△	△	△			
						DV15.3.9.2	契約交渉段階で、プロジェクト計画に適合する条件協議を行う																
						DV15.3.9.3	計画未達の場合、委託企業から解決策提案を受け、その妥当性と実現性を審査し、実行させる																
						DV15.3.9.4	契約スコープ外の作業に関して、契約変更を計画し、承認を受け実施する																
				DV15.3.10	費用管理	DV15.3.10.1	支払いをプロジェクト全体計画通りに実施する	◎		◎					◎	△	◎	△	△	△			
						DV15.3.10.2	費用超過が識別された場合、対応策を講じる																
						DV15.3.10.3	プロジェクト全体に大きな影響を与える費用超過に対しては、費用変更を計画し、承認を受けて実施する																
				DV15.3.11	品質管理	DV15.3.11.1	定められた手順に沿って、品質管理を実施する	◎		◎					◎	◎	○	○	○	○			
						DV15.3.11.2	品質基準に満たない事象が識別された場合、対応策を講じる																
						DV15.3.11.3	プロジェクト全体の品質に大きな影響が予測される場合、品質保証計画を変更し、承認を受けて実施する																
						DV15.3.11.4	品質保証計画の変更に伴う改善状況を確認する																
				DV15.3.12	リスク管理	DV15.3.12.1	リスク管理対象のすべての要素に対して監視および追跡を継続する																
						DV15.3.12.2	計画されたすべてのリスク予防策を実施し、その効果を確認する																

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール							アジャイル型ロール												
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補助的にかかわるタスク △：実施にはかわからないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）															プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム									
								タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネジメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネジメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン
						DV15.3.12.3	新たに識別したリスクへの予防策、発生時対応計画を策定し、実施する	◎		◎					◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
						DV15.3.12.4	リスクの発生に伴い、不測事態対応計画を実行して復旧状態を確認し、その過程を評価する																				
						DV15.3.12.5	リスク発生に伴うすべての事項を文書化する																				
					DV15.3.13	コミュニケーション管理	DV15.3.13.1	プロジェクト情報の収集と報告をプロジェクト計画通りに実施させる																			
							DV15.3.13.2	会議体の設定を計画通りに実行させる	◎		◎					◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
							DV15.3.13.3	コミュニケーションの過不足が認識された場合、対応策を講じる																			
							DV15.3.13.4	プロジェクト全体の進捗に大きな影響を与えるコミュニケーション不足については、コミュニケーション計画を変更し、承認を受けて実施する																			
					DV15.3.14	変更管理	DV15.3.14.1	起案されたすべての変更要求を受け付け、保存（データベース化）する																			
							DV15.3.14.2	プロジェクトの変更要求に関連する付帯的な情報を収集し、変更要求を把握する																			
							DV15.3.14.3	プロジェクトの変更要求に対する分析と評価を行い、その対応方針を定める	◎		◎					◎	◎	○	○	○	○	○	○				
							DV15.3.14.4	変更による、スコープ、スケジュール、費用等への影響を推定する																			
							DV15.3.14.5	プロジェクトの変更要求と対応策について、関係者と基準に照らして評価し、承認する																			
				DV15.3.14.6			変更実施を直接的な関わりを持つ、もしくはその影響を受けるすべての関係者に伝達する																				
				DV15.4	プロジェクト終結	DV15.4.1	プロジェクト終結の確認	DV15.4.1.1	プロジェクト計画書に記述されたすべての成果物が揃っているかを確認する																		
								DV15.4.1.2	成果物が設定されたユーザ検収条件を満たすことを確認する	◎		◎					◎	○	◎	○	○	○	○				
								DV15.4.1.3	プロジェクトの完了条件を満たしているかを確認し、プロジェクト終了状況を把握する																		
								DV15.4.1.4	すべての残項目を明らかにする																		
						DV15.4.2	プロジェクトの完了報告	DV15.4.2.1	プロジェクト全体の実行要約を文書化する																		
								DV15.4.2.2	初期計画と完了時の差異発生の原因を文書化する																		
								DV15.4.2.3	実施した変更の効果を文書化する	◎		◎					◎	○	◎	○	○	○	○	○			
								DV15.4.2.4	すべての成果物をユーザおよび製品管理者に引き渡し、検収、承認を得る																		
		DV15.4.2.5	プロジェクトの完了状況を関係者に報告する																								
		DV15.4.2.6	プロジェクトの終結をすべてのプロジェクト関係者に通知する																								
		DV15.4.3	プロジェクトの完了評価	DV15.4.3.1	プロジェクト完了後、プロジェクトの概要、実行結果等を整理し、文書化する																						
				DV15.4.3.2	プロジェクト計画、実行過程、管理方法、成果（ノウハウ、知識、経験等）等に関する評価を行う																						
				DV15.4.3.3	プロジェクトの実績情報の収集、整理を行う	◎		◎					◎	○	◎	○	○	○	○	○							
				DV15.4.3.4	プロジェクトの実績情報の分析を行う																						
				DV15.4.3.5	プロジェクトの実績情報、分析結果を情報共有する																						
		DV15.5	プロジェクト個別の品質マネジメント	DV15.5.1	レビューのマネジメント	DV15.5.1.1	プロジェクト計画時に、レビューの対象とする成果物、実施時期、完了判断を定める																				
						DV15.5.1.2	レビュー対象の成果物が当該プロセスの要求事項を満たすことを確認し、指摘事項を含むレビュー報告書を作成する	◎		◎					◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎					

従来型ロールとアジャイル型ロールの比較表

大分類		中分類		小分類		項目		従来型ロール								アジャイル型ロール										
・本表は、従来型（ウォーターフォール型）開発に従事してきた人材が、アジャイル開発について学ぶ時、従来型ロールとアジャイル型ロールの実施するタスクの違いを比較するための参考資料です。 本表は参考資料として示すものであり、全てこのとおりに実施すること、もしくはこれだけ実施すればよいことを示すものではありません。 ・各タスクに対して、従来型ロール(下図の赤枠)とアジャイル型ロールの対応（下図の緑枠）を示している。記号の意味は次のとおり。 ◎：主体となって実施するタスク ○：他のロールが主体となって実施し、補佐的にかかわるタスク △：実施にはかわらないが、タスクの情報を共有する -：何も行わない（実施にかかわらず、タスクの情報も共有しない）																プロダクトオーナー		スクラムマスター	開発チーム							
																ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクトチャレンジ	アプリケーションデザイン	テクニカルエンジニアリング	ITサービスマネージメント	ビジネスプロデューサー	ビジネスアナリシス	プロジェクトマネージメント	ITアーキテクトチャレンジ
タスク大分類コード	タスク大分類	タスク中分類コード	タスク中分類	タスク小分類コード	タスク小分類	評価項目コード	評価項目																			
						DV15.5.1.3	レビューの実施結果を評価し、レビュープロセス自身の改善を行う																			
				DV15.5.2	テストのマネジメント	DV15.5.2.1	プロジェクト計画時に、プロジェクトが実施するテスト活動に関与する組織とその役割（テストの実施、監視等）を定める	◎		◎																
						DV15.5.2.2	プロジェクトの対象プロダクト（システム、製品）、採用する開発プロセス、品質目標等に応じて、実施するテストレベルを定める																			
						DV15.5.2.3	プロジェクトにおけるテスト活動の指針やプロセス、ゴールとそれに至る手段に基づき、実現可能なテスト実施計画を策定する																			
						DV15.5.2.4	テスト計画を妨げる要因を識別し、テスト漏れによって発生する損害の発生や影響を最小限とするようにテストを（再）計画、管理する																			
						DV15.5.2.5	テストプロセスの進捗状況や実施結果に関する情報を収集する																			
						DV15.5.2.6	テストレベルやテスト項目に応じたテスト環境を確保し、その環境をテスト実行のリリースを含めて維持する																			
				DV15.5.3	品質分析・評価のマネジメント	DV15.5.3.1	評価対象、評価スケジュール、評価者を定めた品質評価計画を策定する	◎		◎																
						DV15.5.3.2	品質に関するニーズを品質要求定義として、品質特性、副特性を用いて品質目標、測定基準、測定手法を定める																			
						DV15.5.3.3	主要な開発プロセスの成果データを取得し、品質目標と比較して分析、評価する																			
						DV15.5.3.4	評価結果を総合し、プロダクトの全体品質を評価する																			
						DV15.5.3.5	評価データ、分析・評価結果に基づいてプロダクト品質やプロセスの弱点を探り、改善事項として整理する																			